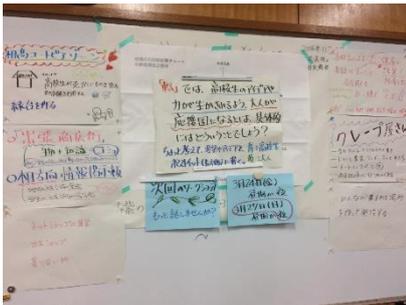




「地域のか」診断ワークショップ

質問票・アンケート集計結果&ワークショップご報告



開催日時:2016年11月28日(月)19:20~21:30

場所:静岡県立相良高校会議室(牧之原市波津 1700-3)

主催:県立相良高校・本通り商店会・新町ユーロード商店会・静岡県立大学(COC 事業)

「ふじのくに」みらい共育センター・牧之原みらい交流サテライト

協力:一般財団法人CSOネットワーク

目次

「地域の力」診断ツールの結果まとめ	...	P. 2
1. 質問票の集計結果 ～分野別平均～	...	P. 3-4
2. 質問票の集計結果 ～質問ごとの平均～	...	P. 5-6
3. 主観的幸福度 ～アンケート回答結果～	...	P. 7
4. 主観的幸福度 ～記述回答結果～	...	P. 8-10
5. ワークショップ 各グループの発表	...	P. 11-13
6. 次回に向けて～いただいたコメント～	...	P. 14-15
7. 参考：主観的幸福度属性分析等	...	P. 16-17
8. 終了後のアンケート集計結果	...	P. 18

「地域の力」診断ワークショップ 質問票・アンケート集計結果&ワークショップご報告

2016年11月28日（月）夜、県立相良高校会議室にて、本通り商店会、新町ユーロード商店会、県立相良高校、静岡県立大学(COC事業)「ふじのくに」みらい共育センター・牧之原みらい交流サテライト主催による「地域の力」診断ワークショップが開催されました。

静岡県立大学 COC 事業・牧之原みらい交流サテライトが、両商店会と相良高校の間に入り、高校生が両商店会の皆さまにインタビューを行う事前のフィールドワークを経て、当日は両商店会から18名、高校生10名、地域の方8名とあわせて36名もの方がお集まりくださいました。

以下、ワークショップに協力したCSOネットワークより、「地域の力」診断ツールの結果およびワークショップの様子を報告させていただきます。

「地域の力」診断ツールの結果まとめ

- ・評価が高かったのは、大人では、地域の人々による参画と協力を測る「共生社会」、高校生では、福祉や教育、治安や防災を測る「暮らしと生活」の分野でした。個々の質問では「祭りや伝統行事の活発さ」「治安の面で安全」「消防団の活動」「防災の取り組み」などへの評価が高く、商店会や地域の人々による、お祭りや行事、防災等への取り組みが、地域の強みとして共通して認識されていることがわかりました。
- ・評価が低かったのは、大人、高校生とも「公共施設」と「経済・金融」の分野でした。中でも「農水産業の後継者」や「ビジネスの環境」など、地域経済の持続性に関わる課題と、「外出困難者のサポート体制」「空き家」「耕作放棄地」問題など、高齢化と人口減少への対策が今後の課題として共通して認識されていました。
- ・地域に対する満足度、地域への愛着、誇り、住み続けたいとの思いは、ご回答者の皆さんに共通して高いものでした。愛着や誇りを感じる理由には、人の温かさ、人とのつながりに関するものが多く見られました。理想とする地域についても、家族を含めた人間関係の親密さや助け合い・支えあいの息づく地域を多くの方があげておられました。

1. 質問票の集計結果 ～分野別平均～

ご参加者の回答を大人と高校生に分け、6つの分野ごとに集計・平均を出し、グラフ化しました。平均の中央の値は2.5ですので、2.5より大きければ評価が高く、小さければ評価が低いということになります。

参加者全員の分野別回答の平均と標準偏差

	1.共生社会	2.経済/金融	3.自然との共生	4.暮らしと生活	5.公共施設	6.文化と伝統	全体
大人(26人)	2.65	2.18	2.14	2.41	2.03	2.50	2.32
高校生(10人)	2.31	1.99	2.27	2.52	2.14	2.28	2.25

平均高：ピンク 平均低：水色

- 全体の平均は、大人 2.32、高校生 2.25 でした。中央値が 2.5 であることを踏まえると、持続可能性をはかるこの「診断ツール」のものさしから地域を見た場合、全体としては、やや低めの評価になったと言えるかもしれません。

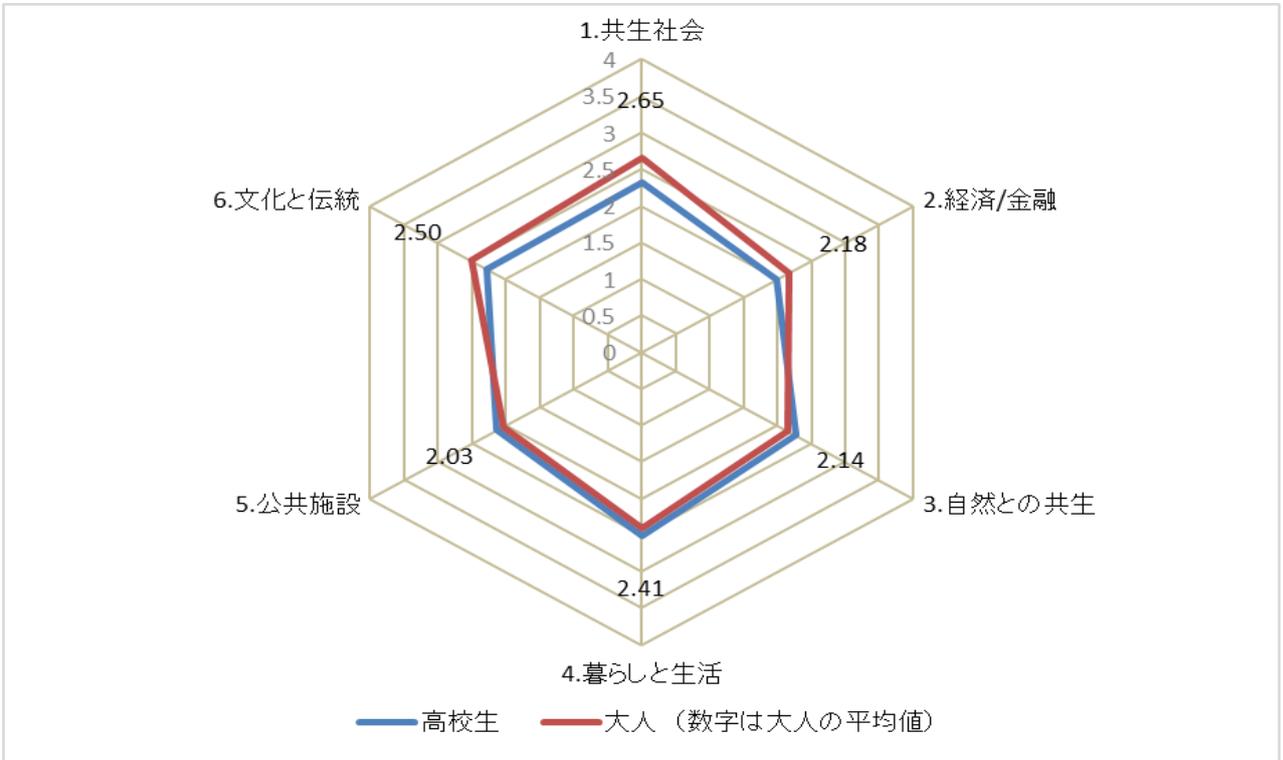
数字から見える強みと弱みは・・・？

大人の評価が高めだったのは、商店会の活動や消防団の活動など地域内の自主的な活動を評価した「共生社会」(2.65)と、活発なお祭の開催等を評価した「文化と伝統」(2.50)でした。一方、高校生の評価が高めだったのは、治安の良さや防災への取り組みを評価した「暮らしと生活」(2.52)でした。

大人も高校生も、「公共施設」(大人 2.03、高校生 2.14)、「経済・金融」(大人 2.18、高校生 1.99)の評価が低い結果となりました。

「公共施設」では、特に公共交通機関や外出困難者へのサポートに対する評価が低く、また「経済・金融」では、農林水産業の後継者問題や、ビジネス環境について、大人・高校生ともに低い評価となりました。

ご参加者全員（大人・高校生別）の分野別平均グラフ



- 地域の助け合いなどを評価する「1. 共生社会」と、地域経済の循環や持続性を評価する「2. 経済・金融」、および地域内のイベント開催や文化の伝承を評価する「6. 文化と伝統」では、大人の方が高校生よりも地域に対する評価が高く、逆に、環境保全の活動などを評価する「3. 自然との共生」と、福祉や教育、治安、防災などを評価する「4. 暮らしと生活」、および公共交通機関や公共施設などを評価する「5. 公共施設」では、高校生の方が大人よりも地域に対する評価が高くなったことから、それぞれの分野で大人と高校生の視点には違いがあると思われます。

（例えば、高校生では、「自然との共生」の中の「23. 景観を保存する取り組み」が比較的高い評価なのに対し大人はそうでもなかったり、逆に、大人では「共生社会」の「1. 商店会等の地域運営組織」や「7. 消防団の活動」が高い評価なのに対し、高校生はそうでもないなど、地域の情報の内容や量に違いがあることが推測されます。）

- 最も高い評価だった、大人の「共生社会」の回答には、かなりのばらつきがあることから、大人の中でも、地域への関わり方の違い等により、地域への評価は異なることが推測されます。

2. 質問票の集計結果 ～質問ごとの平均～

6つの分野の50問の質問毎に、大人・高校生それぞれの平均を算出し、平均の高い質問、低い質問をリストにしてみました。

平均の**高い**質問リスト

大人の平均 (26人)

番号	分野	質問内容	平均
Q45	6. 文化伝統	地域の祭りや伝統行事が盛ん	3.42
Q15	2. 経済金融	地域の商店での買い物	3.36
Q1	1. 共生社会	地域運営組織(商店会・自治会等)の多さ	3.23
Q7	1. 共生社会	消防団の活動が活発	3.20
Q32	4. 暮らしと生活	治安の面で安全	3.12
Q11	2. 経済金融	地域の金融機関を利用している	3.08
Q37	5. 公共施設	公民館・コミュニティセンターが近くにある	3.00

高校生の平均 (10人)

番号	分野	質問内容	平均
Q32	4. 暮らしと生活	治安の面で安全	3.67
Q45	6. 文化伝統	地域の祭りや伝統行事が盛ん	3.30
Q4	1. 共生社会	困ったときに相談できる人や場所がある	3.10
Q33	4. 暮らしと生活	防災の取り組みが盛ん	3.10
Q23	3. 自然との共生	景観を保存する取り組みをしている	3.00

- 「Q45: 地域の祭りや伝統行事が盛んである」「Q32: 治安の面で安全である」については、大人・高校生ともに、平均が高く（評価する回答が多く）、それらの項目への高い評価が共有されていることがうかがえます。
- 大人の平均からは、「Q15: 地域商店で買い物をする」「Q11: 地域の金融機関を利用している」等、地域のお金がある程度地域の中で循環している様子が見え、また、「Q1: 地域運営組織の多さ」「Q7: 消防団の活動が活発」等、地域を支える活動の活発さもうかがえました。

平均の低い質問リスト

大人の平均（26人）

番号	分野	質問内容	平均
Q25	3. 自然との共生	耕作放棄地を減らす活動は盛んか	1.39
Q35	5. 公共施設	公共交通機関の整備	1.42
Q14	2. 経済・金融	農林水産業の後継者	1.50
Q12	2. 経済金融	ビジネスチャンスの環境	1.52
Q36	5. 公共施設	外出困難者のサポート体制	1.54
Q43	5. 公共施設	空き家状況の把握・利活用の促進	1.56
Q13	2. 経済・金融	商工業等の後継者の有無	1.39

高校生の平均（10人）

番号	分野	質問内容	平均
Q14	2. 経済・金融	農林水産業の後継者	1.25
Q36	5. 公共施設	外出困難者のサポート体制	1.44
Q49	6. 文化と伝統	世代間・異業種間コミュニケーション	1.50
Q25	3. 自然との共生	耕作放棄地を減らす活動は盛んか	1.50
Q42	5. 公共施設	地域外からの移住者受け入れ体制	1.63
Q12	2. 経済金融	ビジネスチャンスの環境	1.63
Q46	6. 文化と伝統	住民参加できるスポーツ・芸術の施設や催し物	1.70

- 「Q25：耕作放棄地を減らす活動」「Q14：農林水産業の後継者の有無」「Q12：ビジネス環境」「Q36：外出困難者のサポート」等については、大人・高校生ともに、平均が低く（評価しないとする回答が多く）、それらの項目への評価の低さは共有されていることがうかがえます。総じて、地域経済の中でも農水産業に関わる課題は広く共有されており、同時に、新たなビジネス醸成のための環境についてはあまり認識されていないと言えるでしょう。また、地域の高齢化が進む中で、外出困難な方へのサポートについては、あまり実施されていない、あるいは知られていないことが示唆されています。
- 平均の低い質問が「2. 経済・金融」「4. 公共設備」分野に多いことから、農水産業や福祉分野など異業種の方との連携等にもチャレンジされる中から、あるいは、行政とのつながり等も活用されながら、地域全体として商店街を盛り上げていかれることを願っております。

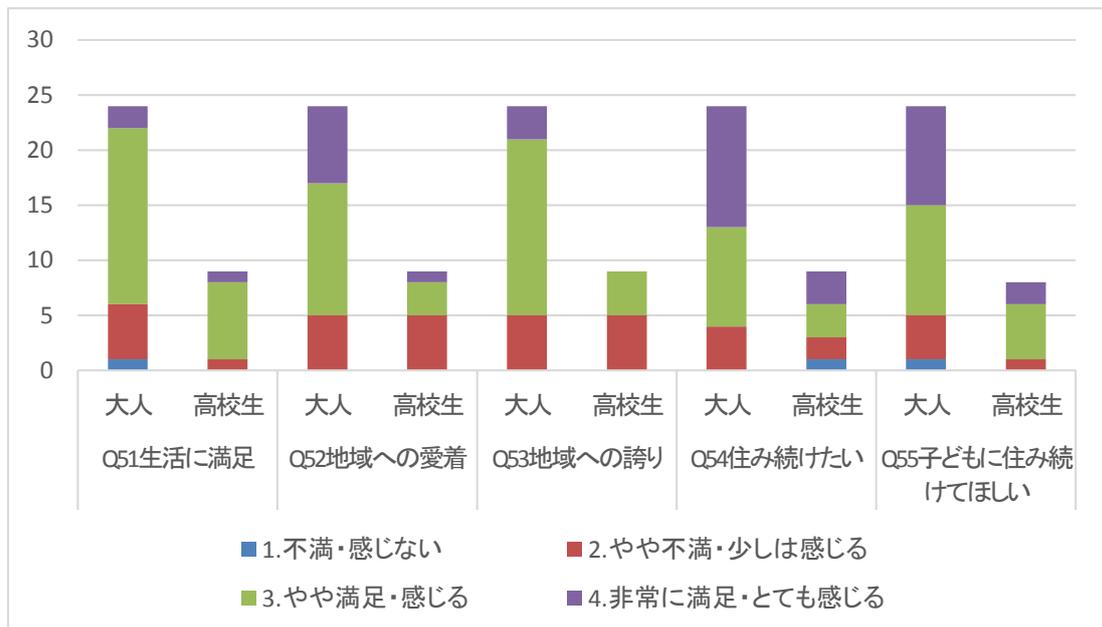
3. 主観的幸福度 ～アンケートの回答結果～

別紙にてご回答いただいた主観的幸福度に関する5つの質問についても、大人・高校生それぞれに平均を算出しました。

大人と高校生の平均

番号	主観的幸福度質問	平均 大人(24人)	平均 高校生(9人)
Q51	生活に満足	2.79	3.00
Q52	地域への愛着	3.08	2.56
Q53	地域への誇り	2.92	2.44
Q54	地域に住み続けたい	3.29	2.89
Q55	子どもに住み続けてほしい	3.13	3.13
全体平均		3.04	2.80

大人と高校生のグラフ



- 主観的満足度の平均は、大人・高校生ともに概ね中央値の2.5よりも高く、特に、大人では、「地域に住み続けたいという思い」や、「子どもに住み続けてほしいという思い」、「地域への愛着」が高いことがわかりました。高校生も「子どもに住み続けてほしい」と感じ、「地域の生活にも満足」していますが、「地域への誇り」はやや低いという結果となりました。

4. 主観的幸福度 ～記述回答～

地域に対して愛着や誇りを感じていると答えた方の、愛着や誇りの理由についての記述回答は、以下ようになりました。

●は大人の回答、●は高校生の回答です。

1. 愛着・誇りに関する記述回答

主観的幸福度 Q51：愛着に関する記述回答一覧

Q51-2. どんなどころに愛着を感じていますか。 (Q51で愛着を感じていると答えた方のみ回答)	
●結婚後この地域に住み、子どもを育て、家族と共に暮らしてきたので	●地域の人の温かく、穏やかで治安が良くて住みやすいから
●自分が生まれたところが好き	●治安が良くて住みやすいから
●商店をしている場所だし、当店を利用してくれる人が沢山いるから	●地域で開かれるイベントなどがみんな楽しそうだし、自分も楽しめる
●都会の様にガサガサしていないところ	●商店街の繋がり、お祭り、消防活動など
●温かい人、景観、方言、地域性、気候	●歴史・祭り・凧揚げ
●静かで住みやすいから	●人情・人と人とのつながり
●昔ながらの商店街が現在も残っているところ	●高校生が素直なところ
●あくせくしてないところ、のんびりしているところ	●商店街の方々が高校生に優しく接して下さっているところ

- 愛着の理由としては、「人の温かさ」「商店会のつながり」「高校生が素直」等、人の良さや人とのつながりをあげる回答が16人中6人と三分の一以上にのぼりました。また「静か」「のんびり」「ガサガサしていない」等地域の雰囲気に加えて「治安の良さ」もあり、皆さんが住みやすい地域と思われている様子がうかがわれました。
- 「商店をしている場所だし」「商店街のつながり」等、商店や商店会に対するコメントも多く、愛着の理由としての商店会の存在の大きさがうかがわれました。

主観的幸福度 Q52：誇りに関する記述回答一覧

Q52-2. どんどころに誇りを感じていますか。

(Q52 で誇りを持っていると答えた方のみ回答)

● ゆったりとした、人のいい感じ。他の地域よりもまだコミュニケーションが残っている感じ。	● 自分の住んでいる地域なので誇りを持っていたい。「このような場」が持たれているところ。豊かな自然。
● 温かい人、景観、方言、昔からの歴史がある	● 地域の人が協力して地域の為に動いている
● 友人・好きな人。素敵な人・尊敬できる人がいらっしゃるから	● 県内でもボランティア活動が一番多いと思うから
● 自然が豊かで住みやすい	● 地域に高校があることに誇りを持つ
● お茶がおいしい	● お互い協力して生活していると思う

- 誇りの理由としても、「温かい人」「人の良さ」「地域の人が協力」「ボランティア活動」等、人柄や地域の活動に関する答えが多く、10人中7人にのびりました。愛着とともに誇りの源泉の多くも、地域の人々の人間性や人と人とのつながりであることがわかりました。
- 「自然」「景観」や、「歴史」「方言」「お茶」など歴史や文化に関するものも複数あり、明るく穏やかな風土や、由緒ある歴史から生まれる地域全体がもつ雰囲気にも多くの方が誇りを感じていることがうかがえました。



軽トラ市



飯津佐和乃神社の御船行事（県指定無形民俗文化財）牧之原市観光協会ウェブサイトより

2. 「幸せな地域とは」に関する記述回答

最後の質問「Q56. あなたの考える幸せな地域とはどのような地域ですか。」という質問に対する記述回答は、以下となりました。

●は大人の回答、●は高校生の回答です。

主観的幸福度 Q56：幸せな地域に関する記述回答一覧

Q56 あなたの考える幸せな地域とはどのような地域ですか。	
● 伝統を受け継ぐ。持続する郷土・社会を基盤に行政・経済・教育・医療が健全に回る町。新しいイノベーションを育む機運・活力にあふれた人々が笑顔で暮らせる町。	● まず、いろんな世代の人（若い人から古い人まで）が住んでいること。その人たちがそれぞれに生活に満足できるような環境があること。コミュニケーションがあること。
● 幸せと思える人が地域住民の半数を超え、わいわいしている地域。土日に商店街を家族みんなで歩いている街。自分の子供もこの町で住みたいと思える、住み続けてくれる町。	● 仕事・やりがいをもって取り組めるもの・場所がある。支えあえる人が居る。 ● 地域の人がたくさんの繋がりを持っていてどこに行っても話せる人が居るような地域
● 強いリーダーのいる街	● 治安が良く平和で安全な地域
● 人が互いに適度な距離を保って心豊かに住める地域。	● 自分や子供の進路などを狭めないような地域
● 人々が助け合う地域。	● 子どもたちが安心して暮らせるところ
● 地域でコミュニケーションが取れて助け合える地域	● 子どもたちがたくさんいる。地域の方が明るく話しやすい。
● 地域の人全員が地域のことを一緒に考えて盛り上げていける地域	● 家族連れや中学生・高校生などが買い物をしたり公園とかで遊んでいる感じ

- 幸せな地域像としては、上記の愛着や誇りに関する記述回答同様、家族を含めた人とのつながりや助け合い・支えあいをあげる回答が最も多く、15人中10人と全体の三分の二にのぼりました。また「活力」「わいわい」等元気で安心・安全な地域との回答も複数ありました。子どもや若者について触れた回答が15人中7人と半数近くにのぼり、未来に思いを馳せた持続可能な地域を多くの方が望まれていることがうかがわれました。

5. ワークショップ グループごとのご発表

診断ツールの集計結果を踏まえ、「高校生のアイデアや力が、商店街で1つでも形になる」をテーマに、6つのグループに分かれて、大人と高校生とで話し合いを行いました。最後に話し合いの結果をそれぞれのグループの高校生から発表してもらいました。進行は、静岡県立大学 COC 事業・牧之原みらい交流サテライトの地域連携コーディネーター 東 宏乃さんが務めました。

◆ 第1グループ

「高校生によるたこ焼き店の経営」

- * 学校と自宅の中間地点が欲しい。
- * 家に帰ればご飯があるけど、家に帰るまでの空腹をうめてくれる軽食屋さんが欲しい。
- * 持って帰れば、夜ご飯のおかずにもなる。
- * 食材を商店会から仕入れることもできる。



◆ 第2グループ

「クレープ屋さん」

- * 学校からの帰りに立ち寄って、みんなで話したり勉強したりできる場所が欲しい。
- * 学生・ちびっこ・ママさんたちも集える。
- * ドリンクが豊富で漫画・テレビがある。
- * 大きなイートインスペースがある。
- * 商店会の良いところを詰め込んだお店。



◆ 第3グループ

「相高ユートピアゾーン」

- * 空き店舗を利用したり、イベントで高校生が売りたいものを売ったりできる仕組み。
- * 縁台を作る



◆ 第4グループ

「出張商店街」

- * 学生の欲しいものを前もって商店会に伝え、商店会の方が学校に売りに来てくれる。
- * 商店会の大人は「物」も「知識」も持っている。
- * それらを出張してきてくれた時に一緒に伝えてもらうことでコミュニケーションが活発になる。



「双方向情報掲示板」

- * 地域を知らない学生と、学生を知らない大人たちをつなぐ掲示板。
- * 高校側と商店会側の両方に置いて、どちらもお互いに情報を更新していく。

◆ 第5グループ

「みんなが集まれる場所を作って発信する」

- * 商店会・高校生がお互いを知ることが必要
- * 面白いものを扱っている商店を高校生が取材しに行く。



◆ 第6グループ

「ネットショップの運営」

- * 相良高校にはせっかく商業科があるのだから、ネットショップで商店会のものを売れば商売の体験にもなる。
- * 商店会の年配の方々の苦手なことを、新しいことに敏感な高校生の目で補う。
- * 高校生がショップを運営をすることで、商店会にどんな商品があるかを知ることができる。



「出先ショップ」

- * 高校生が作ったものを、商店会の空き店舗で売る相高の出先ショップを作る。
- * 空き店舗の有効利用にもなり、一緒に商売をすることによって商店会のこともよくわかる。

「寄合所」

- * 高校生が帰宅途中に集まれて、商店会の人たちとも気軽に話せる場所を作る。
- * 家と高校の中間地点を作る。



- 高校生の中には「家と高校の中間地点」で「みんなで集まって話をしたり勉強をしたり、軽食をとれたりする場所」がほしいという希望が多くあり、その思いが商店会の中での「たこ焼き屋」や「クレープ屋」「寄合所」というアイデアとして発表されました。また、それに類するものとして、商店会の空き店舗を活用して高校生の売りたいもの（作ったもの等）を販売するという提案も出されました（「出先ショップ」「相高ユートピアゾーン」）。高校生による空き店舗の活用は、高校生が集まる場所という以上に、高校生と商店会の皆さんとのコミュニケーションが活発になる効果が期待できるとの意見もありました。
- 商店会と高校生のコミュニケーションを活発にするための仕組みが必要との意見も多く、具体的には商店会と高校生双方のお知らせを掲示する「双方向情報掲示板」や商品とともに知識や知恵の提供も期待できる「出張商店街」などの提案が出されました。「情報掲示板は、場所もとらずお金もかからず始めやすい良い案ではないか」との声も聞かれました。
- 相良高校（特に商業科）との協働で、商店会の「ネットショップ」の運営を試みてはどうかとの意見も出されました。すでに、ネット販売をされている商店さんや Facebook 等で情報発信をされている商店さんもいらっしゃいますが、面白いもの珍しいものがインターネット上の口コミで広がる時代ですので、商品のみならず様々な商店会の情報を、高校生の若い感性で発信するという試みには期待がもてるのではないかと感じました。

各グループのアイデアが全体で共有された後、静岡県立大学の津富宏先生が、「皆さんの意見ではコミュニケーションの場を求める声が多かった」「商店会は地域コミュニティの中心である」とのお話で締めくくられました。

6. 次回に向けて～いただいたコメント～

ワークショップの最後に、ワークショップで話し合われ発表されたアイデアに対して、大人はどのように応援できるのか、そして、高校生からは大人にどのような希望があるのかについてコメントを書いていたいただきました。

今回のワークショップでの議論をより深め、掲げたテーマ「**高校生のアイデアや力が、商店街で1つでも形になる**」の実現に向けて、

来年 2017年3月27日（月）夜

再び話し合いの場を設けることが合意されました。

大人から高校生へ ～大人はどのように応援できるのか～

おいらの知恵と力を気軽に貸すよ！	空き店舗の提供
具体的に行動に移すこと！ 夢で終わらせない。	アイデアの提供、場所の提供、商材の提供。
応援の具体的な手段、手助けはできると 思います。後ろからバックアップして、 フォローしたい。資金も、少々。	インターネットなどショップをやるた めの方法を考える。コラボできるもの を考える。長く続く方法を考える。
出来ないと言わず、高校生のアイデアを 生かす努力を！	こういった会を何回もやって、若い人 と情報の交換、話をしたい。
学校の先生が積極的に活動に参加	知恵と人手で、応援したい。
商店街はハード面の支援をすること	こういう集まりをして欲しい。
少しでも夢を形にしていくために、協力 する。	コミュニケーションの始め。出張商店 街。
お呼びがあればできるかぎりのお手伝 いをします。オバサンたちに宣伝しま す。	高校生の話をていねいに聴く。（一緒 にお話しよう）おもしろい人、場所、機 会をつなぐ。

高校生の意見に良く耳を傾けること。	場所と知恵。
高校生が相談に来たら、親切にのってあげよう。	高校生と学校側との相談を手助けさせてもらえたら。相高ショップ的なこと。
出来ることは、必ず協力する。	もっと商店街を知ってもらいたい。
できるだけ近い目線で、高校生の意見を尊重する。	立ち寄りやすいお店づくり。
高校生の要望に答える。	商品の知識・情報の提供

高校生から大人へ ～要望～

高校生にない専門的な知識を伝え、高校生にできない場所、食材の提供、保存の方法。	集まれる場所をつくるために、場所の提供。管理。
高校生は商売をしたことがないので、実際に体験して思ったこと、アイデアを伝えて欲しい。	高校生に足りない部分（場所、もの、経験、知識）のサポートをしてもらえるとありがたいと思う。
大人が思っている以上に高校生は頼りない。自分の事しか考えず、店側の事を考えない要求をしてくるのが高校生。でも、だから、誘導しやすい。僕が金をもらい店を出すなら、生きていける自信がある。	大きい派手なことは無理でも、小さなアイデアで、ついでに商売に使えるようなアイデアを活用してくれることかな？と思う。
商店街の情報をもっと知りたい。	店先にくつろげるスペースを。
高校生をイベントにもっと呼んで欲しい。	高校生、商店街の人のための 環境づくり。

7. 参考：主観的幸福度に関する分析

1. 主観的幸福度と他の回答との関係（相関）

主観的幸福度と他の回答との関係を見るために、相関係数を算出して相関関係（一方が変化すれば他方も変化する関係）を調べてみました。

◆ 0.5以上はかなり高い相関があり、0.4~0.5は中程度の相関とされます。

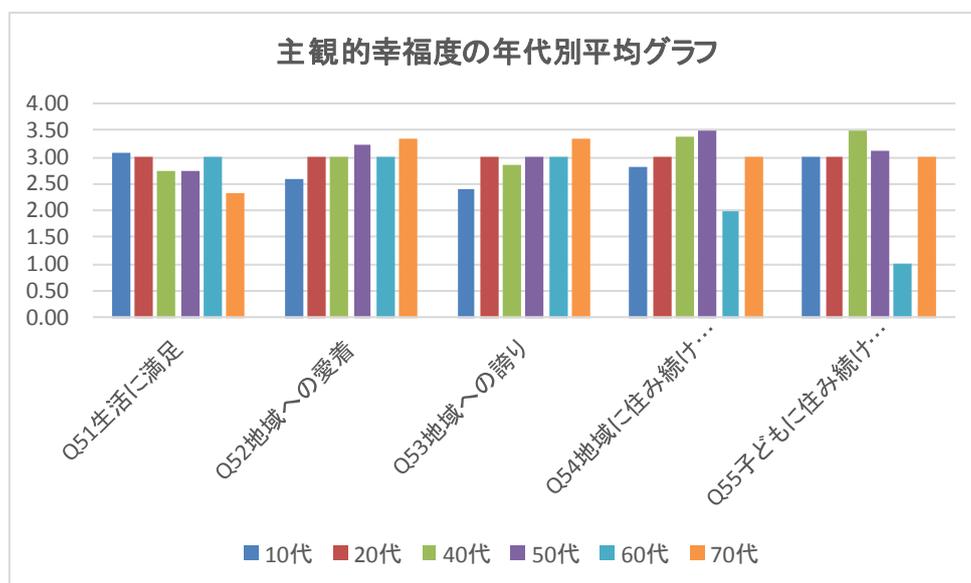
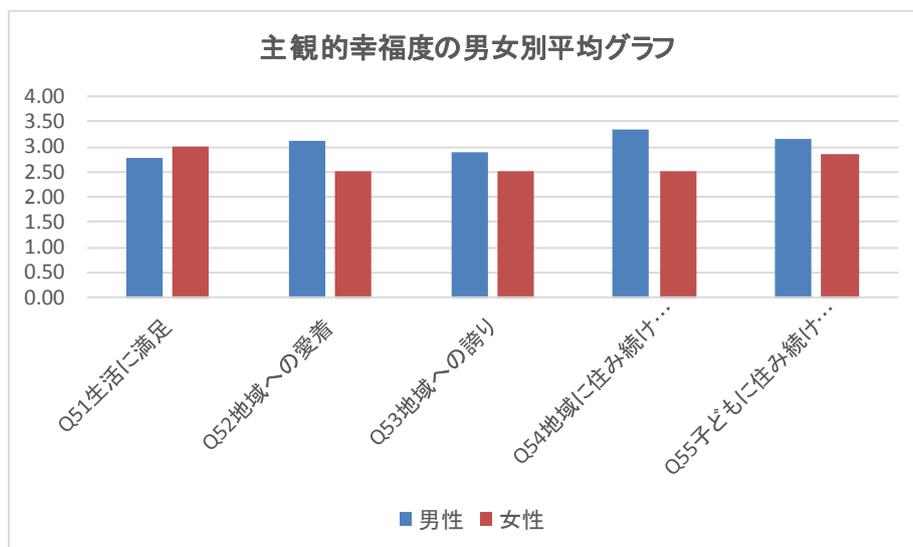
	Q15地域内商店での買い物	Q34障害者に暮らしやすい地域づくり	Q16地域内で農業・商業・製造業の連携が盛ん	Q12地域での起業の環境	Q1商店会等地域運営組織
Q51生活に満足		0.555			
Q52地域への愛着			0.545		
Q53地域への誇り	0.561			0.491	0.476
Q54地域に住み続けたい	0.519			0.487	

- 主観的幸福度と他の質問との関係で注目されるのは、「Q15. 地域内商店で買い物をする」と答えた人ほど「Q53. 地域への誇り」を感じ「Q54. 地域に住み続けたい」と感じている点です。地域の商店を大切にする気持ちと、地域への誇りや住み続けたい気持ちはつながっているととらえることができ、この気持ちこそが地域をつくっていく原動力になるのではないのでしょうか。

2. 属性からみた主観的幸福度

主観的幸福度に関する質問について、回答者の属性（性別・年代）ごとに平均を出してみました。（性別・年代を特定できなかったご回答は集計結果に反映できていません。）

属性	人数(人)	Q51	Q52	Q53	Q54	Q55
		生活に満足	地域への愛着	地域への誇り	地域に住み続けたい	子どもに住み続けたい
男性	23	2.78	3.13	2.91	3.35	3.17
女性	8	3.00	2.50	2.50	2.50	2.86
10代	10	3.10	2.60	2.40	2.80	3.00
20代	1	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
40代	8	2.75	3.00	2.88	3.38	3.50
50代	8	2.75	3.25	3.00	3.50	3.13
60代	1	3.00	3.00	3.00	2.00	1.00
70代	3	2.33	3.33	3.33	3.00	3.00



- 年代、性別ともに人数の偏りがあるため、その傾向については、あくまで参考として記します。(特に、女性回答者 8 名のうち 6 名は高校生なので、男女別の傾向についての比較は差し控えます。) 年代別では、30 代が 0 人、20 代も 1 人と、若い大人の参加が少ないことは今回のワークショップの特徴とすることができると思います。人数が多い年齢層 10 代、40 代、50 代を比較してみると、現在の地域の生活に最も満足しているのは 10 代であるのに対し、地域への愛着や誇り、住み続けたいと感じているのは 50 代が一番高く次に 40 代が続き、10 代はいずれも比較的低い結果となっています。働き盛りの 40 代 50 代は地域との関りも強く地域のことをよく知っているゆえに、愛着や誇りをもち住み続けたいと感じているのではないのでしょうか。

8. 終了後のアンケート集計結果

ワークショップ終了後にご回答いただいたアンケートの結果をご紹介します。
アンケート回収数は18でした。●は大人の回答、●は高校生の回答です。

◆ ワークショップへのコメント	
● いろいろお話しできて有意義でした。	● 地域のことが知れてよかったです。
● 実行できるようなものにしたい。	● 若返りました。
● 初めてのことで新鮮な気持ちになったが、商店会の厳しい環境が改めてわかった。	● ぜひ続けてやってください！楽しみにしています。
● せっかく商業科があるので、相良高校に出先ショップを（土日だけでもいい）空き店舗に出店し、その中で高校生の運営するネットショップやコミュニケーションが取れるカフェ的なものをすればいいと思う。	● 本当に形になるのか心配。高校生が意外にしっかりしていて驚いた。先生の本気度がもっと伝わってくるとより盛り上がるのでは。
● とても面白かった。地元の方、大人の方がとても優しくかった。また商店会に行きお話をしたいと思った。	● 自らの住むところ、仕事などを俯瞰してみたことがない。

◆ 今後も続けていきたい、または新しく始めたい活動にはどのようなものがありますか。（複数回答可）⇒ 全 25 票		
1	商品開発・起業等ビジネス関連	7 票
2	地域の安心・安全に関する活動、地域の拠点づくり、世代間・異業種交流	3 票
3	子育て・教育に関する活動、文化の継承・保全、広報発信	2 票
4	他地域との交流、環境保全活動、スポーツや芸術等のイベント開催	1 票

- ワークショップへのコメントからは、地域を知ることができた、コミュニケーションが深まった、という感想とともに、具体的な形にしていきたいという思いが伝わってくるように感じました。新しく始めたい活動としては、「商品開発・起業等ビジネス関連」が多く、よりお仕事に近いところでの形が求められていることもわかりました。

ご協力ありがとうございました。このワークショップが、商店会と高校生と地域の皆さんのコミュニケーションを深め、できることから何かを始めるきっかけになれば幸いです。



相良海岸 (牧之原市観光協会
ウェブサイトより)



一般財団法人 CSOネットワーク
CSO Network Japan

報告書作成日：2016年12月21日

報告書作成者：一般財団法人 CSO ネットワーク（長谷川雅子・木村明日美）

連絡先：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5階

TEL: 03-3202-8188 FAX: 03-6233-9560 E mail: office@csonj.org

URL: <http://www.csonj.org>